日本基督教団
柿ノ木坂教会
牧　　師　渡邊　義彦
協力牧師　松下　恭規

教会報
195 号 2019 年 11 月 17 日

〒152-0022
東京都目黒区柿の木坂
1-31-19
電話：03-3717-3870
Fax：03-3717-3916

パイプオルガン奉献特集号

巻頭言

「神の言葉は働いている」

――テサロニケの信徒への手紙一第2章13節――

牧師　渡邊　義彦

　このようなわけで、わたしたちは絶えず神に感謝しています。なぜなら、わたしたちから神の言葉を聞いたとき、あなたがたは、それを人の言葉としてではなく、神の言葉として受け入れたからです。事実、それは神の言葉であり、また、信じているあなたがたの中で現に働いているものです。(新共同訳聖書)

　日本基督教団信仰告白は、告白をこのようにはじめます。「我らは信じかつ告白す。旧新約聖書は神の霊感によりて成り。」聖書が教会の信仰の土台であることをわたしたちは信仰告白の冒頭で告白します。「旧新約聖書は」と告白していることが大切です。わたしたちの信仰の土台は、旧約聖書だけでもないし、新約聖書だけでもないのです。旧約聖書３９巻、新約聖書２７巻、計６６巻の書物全体がわたしたちの教会の信仰の土台である、と信じ告白しているのです。

　もし、旧約聖書だけがわたしたちの信仰の基準であるならば、キリスト教はユダヤ教と変わらなくなってしまいます。彼らにとってメシアはまだ来ていない、キリストはまだ来ていないのです。キリストの到来をいまだに待ち続けています。ユダヤ教徒たちは、クリスマスがすでにやって来たことを信じられないでいるのです。まだメシアが到来する夜明けを待っています。十字架に上げられた方がメシア、キリストであることに躓いたままです。彼らは旧約聖書だけを信仰の基準とします。

　一方、新約聖書だけを信仰の基準としてしまうときは、紀元２世紀初頭に起こった異端、マルキオン主義になってしまいます。マルキオンは教会の有力な指導者でしたが、旧約聖書に語られる裁きの神、怒りの神を否定しました。神は愛の神であり、キリストこそ愛を具体的に表されたのであり、裁きの神はそこにはおられないとしたのです。新約聖書だけを重んじ、旧約聖書と新約聖書の連続性をまったく顧みなかったのです。新約聖書だけを重んじて罪に対する怒りと裁きに目をつぶってしまうときには、神がなさったことが本当のかたちでは見えなくなってしまいます。わたしたちが負わなくてはならない怒りを、わたしたちの裁かれるべき裁きを、キリストがすべて負ってくださったことがわからなくなってしまうのです。そこでは、キリストは必ずしも救い主である必要はなくなるし、わたしたちと同じ肉の体を取る必要もなくなります。キリストが世界に来られた意味はまったく曖昧にされてしまいます。

　主なる神が、６６の書物に、十全に語っておられているのです。神にお会いするのに、わたしたちは旧新約聖書６６巻を必要とします。旧約聖書に書かれていることを、主キリストはすべて満たされ、聖書に語られることを真実なこととしてくださいました。キリス

トが、ガリラヤ、ユダヤでなさったことからはじまって、最初の教会がキリストを世界に宣べ伝え、救いの広がってゆく様を記した福音書や手紙が新約聖書となってゆきます。旧約聖書、新約聖書は、キリストと固く結ばれているのです。

神の国が完成して、神と顔と顔を合わせてお会いするとき、わたしたちは文字としての聖書を手放すことになるでしょう。そのときには、神の口から直接に御言葉を聞くことになるのです。文字としての聖書は地上が続く限り必要とされます。しかし、天地万物が改まり、神の国が完成するときには文字を必要としないで、神の言葉を聞くことになるでしょう。神の言葉は永遠に滅びないのです。

わたしたちが、信仰告白冒頭で聖書への信頼を告白していることは、わたしたちの教会がきわめてプロテスタントなるものの教会であること表わしています。プロテスタント教会は、別の呼び方で福音主義教会と呼ばれます。福音という神の言葉によって建つ教会であることを掲げた呼び名です。福音によって建つ教会では聖書が重んじられ、説教が重んじられます。人の言葉であり続ける聖書と説教において、神の言葉を聞く信仰を与えられることを重んじます。

人の言葉を、神の言葉として聞くことの飛躍は、三位一体の神の第三位格、聖霊がいてくださることではじめて可能となることです。神が、聖霊としてわたしたちと共にいてくださり、わたしたちの中に住わってくださり、わたしたちとひとつとなってくださり、わたしたちに神の言葉を聞くことをゆるしてくださるのです。わたしたちの教会は、神の言葉と一体となった聖霊によって導かれる教会です。聖霊の住みたもうところでは、そこにとどまったままでいることが難しいのです。聖霊によって突き動かされるように、主の命じられることに従い生きようという思いが湧き上がってくるのをとどめることができないのです。既にキリストによって天に確立されている神の言葉が、この地上にも明らかになることに力を献げ、力を尽さざるを得ないからです。

忍耐をもって教えます。忍耐をもって蒔き続けます。蒔かれた御言葉の種はどのように根付き、育ち、実を結ぶか、わたしたちにはわからないのです。蒔き続けるのです。農夫たちは種の命に信頼して種を畑に蒔きます。わたしたちも御言葉の命に信頼して種を大胆に蒔くのです。神は育ててくださいます。実りをもたらしてくださいます。洗礼を授けられた者たちが、神の御心に従い生きゆく道に、地上の生涯の終わりまでも、世の終わりまでも、主が歩みに伴ってくださるのです。

聖書には、旧約聖書にも、新約聖書にも、神の言葉によってこそ人は生かされる、と信じる、同じ信仰に生きた人々のことが記されます。テサロニケ教会も、神の言葉によって生かされた教会です。人の言葉ではなく、神の言葉として、彼らも、彼女らも御言葉に聞いたのです。御言葉が生きて働くとは、聖書に記された人々から、さらに教会の歴史を通じて、わたしたちの間に起り続けています。

キリストは、御言葉に聞く者たちに期待していてくださいます。神の御心に従うように、神の御用に励むように精一杯生きてみたらよい、と言ってくださるのです。そのように生きることのないとき、人は不完全燃焼を起こし不満と恐れを抱くようになってしまいます。神の御心だけを見つめて、神がわたしたちをどのように扱ってくださるのかだけを信じて、今与えられたところで体を霊と、魂、心、精神、命、すべてを、神に献げて生きてみたらよいのです。キリストは、そのように生きることへとわたしたちを励ましてくださっています。

集会出席統計(月平均人数)

	2019年	
	7月	8月
主日礼拝	79.3	71.3
聖書と祈り会	14.8	−
教会学校＊	116.5	91.5

＊保護者、教師を含む

(第1主日開催)	7月7日	8月4日
聖餐夕礼拝	9	8

	2019年	
	9月	10月
主日礼拝	80.4	72.5
聖書と祈り会	12.3	9.6
教会学校＊	107.2	84.3

＊保護者、教師を含む

(第1主日開催)	9月1日	10月6日
聖餐夕礼拝	7	7

<主の働き人・各会・各グループは今>

「パイプオルガンを奉献しました」

次期オルガン導入のための小委員会

長い間、みんなが祈りをもって待ち望んでいたパイプオルガンが与えられ、9月15日(日)に奉献礼拝を捧げることができました。

導入の任に当たったのが、長老会の諮問委員会である「次期オルガン導入のための小委員会」です。この委員会は、パイプオルガンへの長い歴史の中での、パイプオルガン導入の「駅伝」の最終区間、アンカー役でした。

歴史を振り返ってみると、過去のオルガン導入に関連する委員会で、パイプオルガンも検討の俎上に上がった最初の委員会は、約半世紀前、1973年の「オルガン導入委員会」でした。また、パイプオルガン指定献金の初穂は1990年で、これから数えても29年の歳月が経っています。

その歴史をたどってみましょう。

Ⅰ．オルガン検討委員会の歴史

１)「オルガン導入委員会」(1973.3～1974.11)
1968 年にそれまでの木造平屋の旧会堂が手狭になり、現在の会堂の基となる鉄骨壁構造の3階建て会堂が建てられた。

創立20周年記念として、1957年に買った大正3年（1914年）製の中古ヤマハリードオルガンでは力不足となり、新オルガン導入を検討（委員長：平野鉄太郎)。パイプ、電子を含め検討の結果、**パイプには手が届かず、教会用電子オルガン・クロダトーン２C4型を導入**、1974年11月24日に奉献礼拝を行なった。

ヤマハリードオルガンは1996年に改修し、予備用として残した。

２)「オルガン検討委員会」(2002.10～2003.6)
クロダトーンの老朽化による不具合多発と、会堂の耐震改修の動きに伴い、将来新オルガンを導入する場合、その設置場所の確保などを含めた検討が必要なため、委員会を設置。（委員長：井澤浩一)。

パイプオルガン指定献金も増えているが、**耐震改築が優先事項であり、**クロダオルガンをオーバーホールして使い続け、**時機を見て、次期オルガン導入の検討をする**こととなった。
＊2004年の会堂耐震化工事実施時、将来のパイプオルガン導入を考慮し、設置場所の面積、天井高さ、床面補強による耐荷重を確保した。さらに、説教の聴きやすさと、オルガンの響きを両立させる残響時間とするための会堂内壁の材料を選んだ。
＊ガルニエ社ポジティフパイプオルガンのこと

2006年夏、木田先生から先生所有のガルニエ社製ポジティフパイプオルガンを使用した勉強会の会場として、柿ノ木坂教会を使わせてほしい、そして、礼拝でもぜひ使ってほしいとのご依頼があり、長老会で検討してお受けした。

以来2019年9月まで13年間にわたり、ほとんど毎礼拝で用いられた。

３)「次期オルガン検討委員会」
(2013.8～2015.3)

長期的視野で将来のオルガンを検討するため、長老会は、諮問委員会としてこの委員会の設置を決めた。(委員長：井澤浩一)

パイプ、電子を含め、近隣の教会を中心に、機種、性能、導入経緯などについて調査、さらにオルガン輸入代理店、国産電子オルガンメーカーなどの調査も行った。(報告書あり)
パイプオルガン指定献金の状況も併せ、これらの結果から、委員会は近い将来、パイプオルガンを導入することを長老会へ答申。長老会は、**長期的視野で総合的に考え、教会員の総意をもってパイプオルガンの導入を10年以内に進めるとした。**

４）「次期オルガン導入のための小委員会
(2015.12～2019.9)

長老会は、長期的視野に立って考えなければならない課題について討議するため、8 月に拡大長老会を開催。検討した課題の一つを具体化するため、2015 年 12 月に長老会の諮問委員会として､「次期オルガン導入のための小委員会」の設置を決定｡(委員長:井澤浩一、委員：棟居湘子、石岡美典子、飯島康男、渡辺久子、後に清水ひとみ、またアドヴァイザーとして鷺晶子氏が加わった。)

本委員会の目的を「パイプオルガンの仕様と、ビルダー選定、資金計画の検討を行い、長老会に提案」とした。

2016 年 4 月　国内外ビルダーを検討の上、建造実績や、将来の継続性（後継者の有無）などを基に、**2 社に絞った。**

2016 年 10 月　礼拝後、教会員と共に「オルガン導入についての学び」を実施。

2016 年 10 月　ビルダー2 社それぞれに､礼拝楽器としてのオルガンに対する考え方、柿ノ木坂教会の規模に合ったオルガンの仕様、価格などについて聴き、それらのポリシーを入れたオルガンのある教会の紹介を受け､訪問。経緯､評価などの説明を受けた｡(報告書あり)｡

2017年5月　柿ノ木坂教会にふさわしい礼拝楽器の条件として、①会衆賛美を支えることに加え、神に近づくための導入部である前奏、そして恵みをいただいて、喜びの気持ちで世に派遣される力強い後奏を実現してくれる楽器、②礼拝堂の雰囲気に溶け込めるデザインを挙げ、仕様、価格の提案と説明を受けた。これらを慎重に審議。最終的に柿ノ木坂教会の希望を満たしてくれるビルダーを選んだ。

なお、選んだビルダーに関しては、将来に亘っての会社の継続性を判断するため、財務諸表のチェックや、後継者の存在を確認した上で、長老会に提案した。

2017 年 6 月　長老会は、小委員会からの報告と提案を受け審議の結果、以下を決定。

１）株式会社**マナ オルガゲルバウに発注**する。
２）2019 年 12 月完成を目途とする。
３）過去からの随意指定献金に加え、不足分を補うためのオルガン献金を呼びかける。
４）7 月 23 日に臨時総会を開催する。
　　これを基に、仕様書、売契約書、保守契約書その他の必要書類の準備を、マナ オルゲルバウに依頼。

2017 年 7 月 23 日礼拝後臨時教会総会を開催。パイプオルガンをマナ　オルゲルバウに発注することが可決された。完成予想時期は､2017年 9 月末発注で、2019 年 11 月末建造完了。

2017 年 8 月　マナ オルゲルバウを訪れ､発注のための細部打合せを実施。

2017 年 9 月　長老会でオルガン献金募集要項とオルガン献金担当を決めた。

2017 年 9 月 30 日付で、株式会社マナ オルゲルバウと柿ノ木坂教会との間で**パイプオルガン売買契約書に調印し、正式に発注**した。

2017 年 12 月　マナ オルゲルバウは先行受注しているオルガンの建造と並行して、柿ノ木坂教会向けの設計に着手。懸案になっていた吊り鍵盤も採用可との連絡を受けた。

2018年1月　オルガン設置イメージ図を受領。先行受注のオルガンは整音作業に入り、柿ノ坂教会向けのオルガンの建造に重点的に掛かれるようになる。

2018年12月　筐体材料他､部品の調達が進む｡礼拝堂の色調に合わせ、筐体はナラ材にクリア塗装。ウインドチェストなどの木工加工が進む。トラッカーのローラーボードはスペースを確保するため、ステンレス角材を使用。CAD図面も確認した。

2019 年 1 月 長老会にパイプオルガン導入までにやらなければいけない課題について報告。

１）クロダオルガン本体と、バルコニーにある 2 台のスピーカーボックスの処分
２）木田先生所有のガルニエのポジティフオルガンの移転時期
３）礼拝堂で建造が始まり引き渡しが終わるまでの課題　①材料置き場のスペース。②ポジティフオルガンが早めに移転した場合の礼拝楽器をどうするか。③幼稚園と CS のクリスマス行事への影響。

2019 年 2 月　進捗状況は、順調過ぎるくらい進む一方、次の受注オルガンも急がれており、9 月中旬にも引き渡しが可能な状況とのこと。

2019 年 3 月　元クロダオルガンの技術者で、現在クロダオルガンの修理を個人で請け負っている方にクロダオルガンの処分方法について相談。いくつかの具体例を通し、可能性を探る。

①クロダオルガンの現状:発音不良が 5 か所。
45 年経った電子製品なので、今後も不良の多発、さらに電子部品の代替品がなくなる。

②処分方法の事例：
- ネットでの公開はクレームをつけられる例が多く、勧めない。
- 中古品を探している教会や個人を当る：古すぎて引き取りが成立する例は知らない。サイズが大きいので、一般家庭の扉からは入らない。
- 中古の楽器も買い取る店があるらしい。
- 電気安全取締法のこと：法律のない時代の製品なので、安全マークがない。中古なので販売は可能？

委員で友人や施設などに当たったが、すべて古すぎる、大きすぎる理由で断られた。

2019 年 5 月 ネットで見つけた楽器も扱っているハードオフ、武蔵小山店及び、吉祥寺店を訪問。共に古すぎる、大きすぎることで断られた。

同様に、ネットで見つけた「中古エレクトーン引き取り」業者に電話したが、同様の理由で断られた。

2019 年 5 月　長老会にクロダオルガンの処置について調査状況を報告。最悪、粗大ごみとしての廃却を承認。

2019 年 5 月　いずみ会、新生会を中心にマナ オルゲルバウの工房見学会を実施。同会の有志が手作り食品や手芸品などを販売した売上金を献金。またメンバーのお一人が「汽車ポン」というシステムを利用して、古本を売ったお金を献金、という活動をしているので、その方々にオルガンがどのような所で作られ、当教会向けのオルガンが、どのくらい出来ているかを実際に見てもらう目的で実施した。呼び掛けに応じ男性の参加もあった。

2019 年 6 月　青年会も見学会を行った。

2019 年 7 月　長老会　1）建造と整音の予定:8 月 26 日（月）から 2 週間＋αとなる。

２）奉献礼拝:奏楽者練習期間なども考慮し、9 月末から 10 月初旬を検討。奉献礼拝後、マナ オルゲルバウに感謝状贈呈を考える。

３）お披露目の演奏会：オルガンが安定した後、6 月の伝道月間での音楽会が適当と考える。

2019 年 7 月　クロダオルガンの廃却に関し、目黒区に事業系粗大ごみについて問い合わせ。区は扱っておらず指定の業者がホームページに掲載されているとの答え。区のホームページからリストを入手し、136 社中から廃家電を扱っている 29 業者をピックアップ。さらにその中の、近場の 2 社を選んで電話。一社は廃棄楽器の概要を聞いて、あっさり断られた。もう一社が見積もりに来ることに。

2019 年 7 月　業者が見積りに来訪。オルガンを見て、大きくて重いので扱いかねると即座に断られた。当方で分解すればと聞いたが、やはり出来ないとの返事。

2019 年 7 月　2 月に相談した元クロダオルガンの技術者の方に、廃却についての状況を伝えたところ、ピアノ運搬業者なら可能性があるとの示唆を受けた。懇意のピアノの調律技術者にピアノ運搬業者の電話を教えてもらい、その会社に電話すると、ＯＫの返事。

2019 年 8 月 8 日(木)　事前にクロダオルガンとバルコニーにあるスピーカーボックスからの配線などを外す作業を行っておいた。また委員他で運び出すための会堂椅子の移動などを行った。そして 1976 年からの愛着のある**クロダオルガンが搬出されていった。**

2019 年 8 月 26 日（月）パイプオルガンの部品が到着。**建造が始まる。**

2019 年 8 月 29 日（木）建造完了。 建造期間中、多くの CS の生徒とその保護者、教会員などが建造の見学に訪れた。

2019 年 8 月 30 日（金）から**整音作業開始。**

2019 年 9 月 1 日（日）の礼拝では、前週の礼拝にはなかったパイプオルガンが突然姿を現

し、皆さんびっくり。（もちろんまだ使わず。）
2019 年 9 月 5 日（木）整音作業完了。
2019 年 9 月 11 日（水）作成していた奉献礼拝で配るパイプオルガンの簡単な資料「奉献礼拝によせて」を KINKO' S でセルフ印刷。
2019 年 9 月 14 日（土）マナ オルゲルバウの中里社長が来訪され、オルガンの最終微調整。オルガン委員メンバー数人と委員長立会いの下、オルガンを確認し、**引き渡し完了。**
2019 年 9 月 15 日（日）午前 9 時からの教会学校礼拝で新オルガンが使われ、マナ オルゲルバウの中里社長から、子供向けにオルガンの紹介があった。
10：30 から奉献礼拝が行われた。礼拝の中でマナ オルゲルバウへの感謝状贈呈、そのあと、マナ オルゲルバウの中里社長がオルガンを紹介。そして柿ノ木坂教会奏楽者の一人、渡辺久子姉によるオルガン演奏が行われた。
なお、「パイプオルガン保守契約」は 2019 年 11 月 1 日付で締結される予定。

Ⅱ.「次期オルガン導入のための小委員会」メンバーのひとこと　＜原稿到着順＞

30 年近く前に亡くなられた方のご遺志で捧げられた「パイプオルガンのための献金」。その後も静かなかたちで引き継がれてきました。

会堂改築という大きな課題があったため、その実現には長い時が必要でしたが、この度のオルガン導入は正に機が熟したとの感じを受けました。

そして工房とのやり取り、実際のオルガン組立て作業を見ていても、本当に家庭的な雰囲気の中で行われ、マナオルガンはこの教会に入るべくして入ったとの思いを強くしました。

オルガンも安定して会堂に馴染み、奏楽者もオルガンの能力を十分引き出すには少し時を要します。

それと同時に若い人、小さい人の中からこれを弾きたいという人が現れ、次の奏楽者が育つことを強く願っています。

（棟居 湘子：奏楽者）

・いろいろな教会のパイプオルガンを見学し、奏楽者のお話も伺うことができ、参考になった。
・パイプオルガン導入について、当初は「現教会堂の規模では電子オルガンで充分」という声も聞かれたが、多くの教会員のご意見を尊重し慎重に検討を進めることができたと思う。
・これからは、毎週捧げる礼拝での使用のほか、伝道活動や、子供たちの教育など、多目的に活用出来たら良いと思う。

（飯島 康男：音響機器メーカー出身、ジャズ、ハワイアンのピアノ演奏活動家）

今回オルガン導入のための委員会に加えていただき、プロジェクトにかかわることができたことをとても嬉しく思っています。オルガンを学び始めたのは中学３年の時、学校にパイプオルガンが入る、とわかった時からでした。初めてパイプオルガンに触ったのは中学３年で参加した教会学校のキャンプで追分教会に行った時です。実際に学校にオルガンが入ったのは高校２年生の時でした。どちらもとても感激したのを覚えています。それから何回かの忘れられないオルガンとの出会いがありましたが、今回のオルガンの奉献も、きっとこれからずっと思い出深い一瞬として思い出すことと思います。今まで学んできたことがこのように直接的に用いられることがあるとは昔は思ってもおらず、用いてくださった神様に、今までたくさんのことを教えてくださった先生方に感謝でいっぱいです。

委員会の活動の中で思い続けていたのは、いかにオルガンのステータスを「格下げ」するか、ということでした。オルガンは確かに日本ではあまりメジャーではなく、オルガン＝近寄りがたい楽器と特別扱いされているように感じます。しかし、オルガンも特別な楽器ではなく、誰でも弾ける楽器、自分にとって身近な楽器、大好きだけれど日常使いの普通の楽器に近づけて行きたいと思い、なるべくシンプルに、こだわりポイントなく、と考えながら委員会の活動に加わっていました。

今後期待することは、今までのオルガン経

験に依るところが大きいです。私が今オルガンを弾いているのは、まだ何も弾けない超初心者だった時からたくさん弾く機会をいただいていたからでした。高校卒業後、大学でもオルガンを学んでいましたが、母校のオルガンの音を聞いたときにあまりに懐かしく、これが自分の原点の音だと思いました。今は大学のオルガンも自分にとってはなくてはならない音です。柿ノ木坂のオルガンもいずれはそのようになるでしょう。教会にオルガンがあることで、オルガンに興味を持つ人たちが増えてくることを願っています。楽器もたくさんの人たちに弾かれて成長していくことを願っています。オルガンは一台一台手作りで、全く同じものはどこにもありません。この教会に集うすべての人の人生にどのような時も寄り添う音となりますように。そして何より、礼拝で十分にオルガンが用いられ、神様を賛美する声がますます力強くなりますように！一番の夢は、賛美の声が大きすぎて、このオルガンでは小さすぎるどうしよう、と悩む日が来ることです。　（渡辺 久子：奏楽者）

オルガンに触ってみたい方、弾いてみたい方、年齢制限はありませんので、是非お声がけください。優しくお付き合いいたします。

（清水 ひとみ：奏楽者）

教会の礼拝にオルガンが導入されたのは10C 前後という。その後、ルターは聖書の御言葉と地域にあるメロディーを礎にコラールを捧げるといった形で礼拝を守った。そしてそれは當に今に繋がっている。柿ノ木坂教会でも教会暦に沿ってコラールを前奏曲にすることが多い。バッハ、メンデルスゾーン、リストといった、名だたる作曲家たちの信仰生活を音楽を通し、オルガンを通し主日に味わう素晴らしい環境が整った。身近に、目の前に対峙する楽器がある、ということをあらためて思った。

複数鍵盤、ペダル付きのオルガンは日本に1000 台設置されていると言われる。ここ東京に、目黒に、柿の木坂に、自分の呼吸する空間に、こんな幸せがある、という恵みを新たにした。

（参考図書：パイプオルガン入門　椎名雄一郎著）

（石岡 美典子：奏楽者）

総合電機メーカー勤務当時、電子オルガンの設計にも携わっていたことから、1973 年の委員会に参加しろと言われたのが始まりです。

その委員会からほんとうに長い年月をかけて、様々なご意見もある中、結果的にオルガン献金も含め会員の総意と、具体的なお働きにより、まさに神様の御心に適った形でパイプオルガンを奉献できたことは、ほんとうに嬉しいことでした。

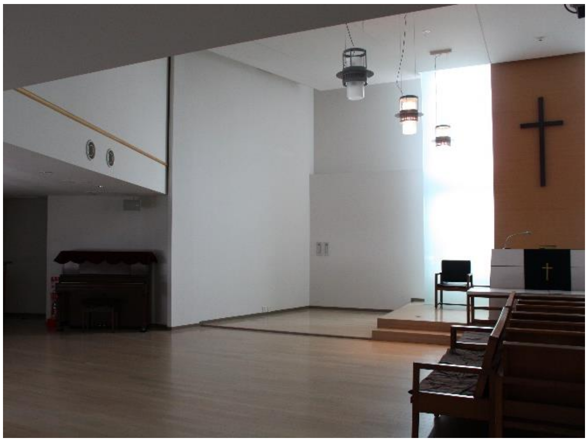
これを実現するための、アンカーとなる次期オルガン導入のための小委員会メンバーには、奏楽者だけでなく、一教会員の立場に加え、ビルダーの経営面などからのチェックも含め、企業で経営に携わった経験のある方の参加もお願いしました。委員各位の、時間と費用をかけての他教会の調査や、お忙しい方々故、夜の委員会も多く、その献身的なお働きに心から感謝いたします。仕様検討などの途中段階では、元柿ノ木坂教会員で、早い時期からパイプオルガンの導入を夢見ておられた芸大のオルガン科出身のオルガニスト、途中段階で他教会の依頼でオルガン主任として転籍された鷺晶子姉にも、アドヴァイザーとして加わっていただきました。5 ページ左下にあるような、教会員の様々な形でのお働きによるご協力により、実現できたことに感謝の気持ちでいっぱいです。まだ 12 月まで続きますが、オルカガン献金担当の皆様にも、お働きに感謝します。

これから教会の未来を担う若いみなさま方には、このオルガンを大切に「育てて」いただきたいし、CS や幼稚園の子供たち、さらにそのご両親にも、オルガンに触れていただきたいと思います。そして「私たちのオルガン」が、伝道の業に用いられることを祈ります。

（井澤 浩一）

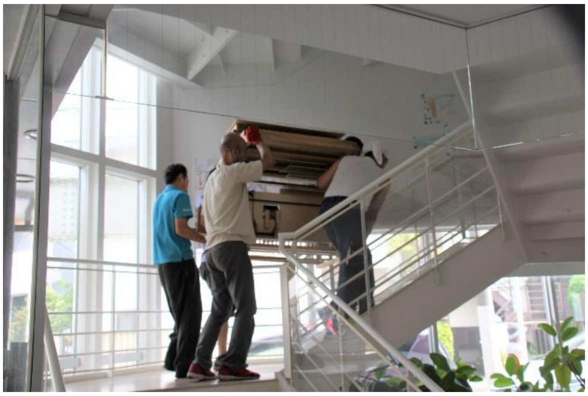
Ⅲ．礼拝堂での建造の記録

８月６日（火）クロダオルガン搬出の日



８月 26 日（月）パイプオルガン建造開始の朝

パイプオルガンの部品が到着



エレベーターに入らない部品の運搬は階段で

エレベーターで運ぶ部品

長いパイプも階段を使って運ぶ
そして仮に集会室に並べられた

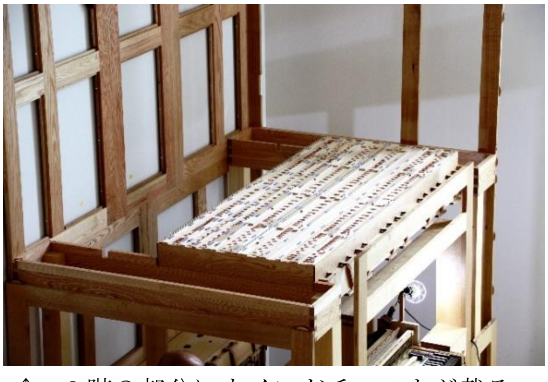
礼拝堂：ベンチを寄せて部品置き場を確保

筐体の組み立てが始まった

8 月 27 日（火）

↑　鍵盤部、トラッカーアクションなどが入る

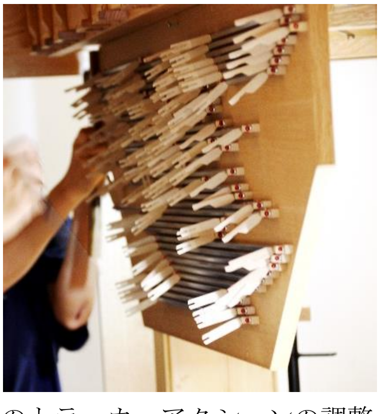
←　上に伸びる筐体、手前下の黒い箱は送風機



↑　２階？部分にウインドチェストが載る

↑　正面のパイプが入る部分が付く

8 月 28 日（水）　　　　　CS の生徒たちと保護者の方々が大勢見学に



手鍵盤のトラッカーアクションの調整　　　　　　足鍵盤のトラッカーアクションの調整

8月29日（木）

取り付けを待つリード管

↑ “2階”の天井に
木管が横向きに設置

↑ Swell(スゥエル＝音の
強弱をつける扉）が付いた

バルコニーからだと全体が見渡せる

作業を覗かせてもらうCSの生徒
左の壁にたくさんの木管が並ぶ。

足鍵盤がつく

前面にパイプが入り始めた　　　　　　　　“２階”に並ぶパイプ群

お手伝いしている委員たちがいます！

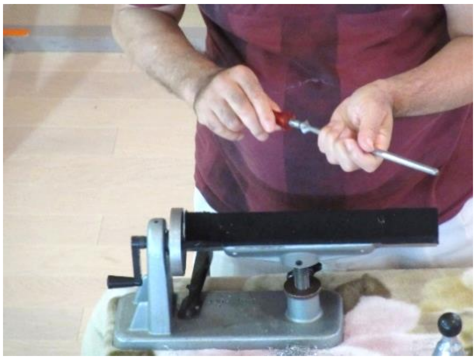
← 最後のパイプが入った

明日からの整音を待つ→

8 月 30 日（金）　整音が始まる

調整の必要なパイプをはずし、調整して戻す

専用の工具で削ることもある



9 月 1 日（日）

←日曜日、教会に来た皆さんは、先週なかったパイプオルガンが姿を現し、びっくり。
しかし、まだ整音などが残っており、引き渡しも終わっていないので、使われない。

9 月　2 日（月）　パイプキャップの洗浄作業、整音の続き。
9 月　3 日（火）　整音作業も順調に進む。
9 月　5 日（木）　整音は午後 3 時半ですべて完了。
9 月 14 日（土）　マナ オルゲルバウによる小修整と最終チェックを終わり、小委員会委員長と委員数名の立会いで確認の上、パイプオルガンが教会に引き渡された。

9 月 15 日（日）　奉献礼拝の日

9：00　CS 礼拝が新オルガンを使って行われた

終了後、マナの中里社長からオルガンの説明

10：30 から奉献礼拝が行われた（下の写真は礼拝の終わりに演奏されたオルガン演奏の様子）

　礼拝の最後に、マナ オルゲルバウ社の中里社長からオルガンに関する説明、続いて小委員会の委員長から、マナ オルゲルバウ社への感謝状贈呈。そして柿ノ木坂教会の奏楽者の一人、渡辺久子姉によるオルガン演奏が行われた。

　この日、「次期オルガン導入のための小委員会」が作った「パイプオルガン奉献礼拝によせて」という小冊子が配られた。

　なお、この冊子にはオルガンの仕様、導入までの簡単な歴史、マナ オルゲルバウの紹介、そして柿ノ木坂教会が使用してきたリードオルガン、電子オルガン、使わせていただいていたポジティフパイプオルガンなどの記事を含めた小史も記載されている。

パイプオルガンの仕様

第 I 鍵盤 Hauptwerk	C～g‴　56 鍵	第 II 鍵盤 Nebenwerk	C～g‴ 56 鍵
1. Prinzipal	8’	4. Gedackt 一部木管	8’
2. Octave	4’	5. Blockflöte	4’
3. Hautbois	8’	6. Nasat	2 2/3’
		7. Waldflöte	2’

足鍵盤 Pedal	C～f’　30 鍵
8. Subbass	16’

ストップ数　8 個　　パイプ本数　422 本

スウェル　Prinzipal 8’ 及び Octave 4’ 以外のパイプ

カプラー　II / I　I /P　II /P

アクション　メカニカル キーアクション、吊り鍵盤、メカニカル ストップアクション

手鍵盤、足鍵盤：ドイツ標準規格

本体寸法（約）：高さ 4.5 m　幅 2.5 m　奥行 2 m

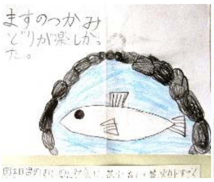
☆☆☆ 教会の行事 ☆☆☆

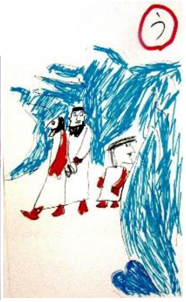
◇今まであったこと

7 月 28 日（日）公文和子姉（海外在住会員、ケニアの障がい児施設シロアムの園代表、小児科医）の報告会「声なき心の声に耳を傾ける～特別な一人一人が共に生きるということ～」が、午前の CS の分級時間帯と、主日礼拝の後、午後にいずみ会主催で行われた。

7 月 29 日（月）～31 日（水）会堂のメンテナンス工事が行われた。（礼拝堂：正面ガラス飛散防止フィルム張替え、天井部破損個所修繕、給排水設備工事、内外排水管清掃、牧師館屋根防水改修工事など）

8 月 4 日（日）～6 日（火）CS 小学科の丹沢サマーキャンプが行われた。
（主題：モーセ）
左：マスのつかみ取りの絵日記（4 年生）
中：モーセのペープサート（5、6 年生）
右：モーセかるた（4 年生）





8 月 25 日（日）13：00～CS 幼稚科デイキャンプが行われた。
8 月 26 日（月）からパイプオルガンの建造が始まり、9 月 14 日完成、教会に引き渡された。
9 月 15 日（日）パイプオルガンの奉献礼拝が行われた。（特集記事参照）
9 月 22 日（日）13：30～16：00　玉川聖学院体育館で南支区合同運動会が開かれ、柿ノ木坂教会からは生徒、教師、保護者合わせて 15 名が参加した。
9 月 29 日（日）高齢の方々等に配慮した礼拝が行われた。聖餐式が執り行われた。
10 月 1 日(日)(行事ではないが)都立大学北口バス停を通る 6 系統の東急バス車内放送広告で、柿ノ木坂教会とベテル幼稚園の案内放送が順次始まった。クリスマス時期にはその案内もある。系統により放送開始時期が違うが期間はそれぞれ 1 年間。
10 月 22 日（日）大人と子供とともに守る礼拝（秋の CS、JC、大人との合同礼拝）が行われた。
10 月 27 日（日）吉田 隆先生（神戸改革派神学校校長・日本キリスト改革派甲子園教会牧師）をお迎えして、礼拝説教をしていただいた。同日午後、当教会で東京改革長老教会協議会「信徒のための講演会」が開かれ、同先生の講演が行われた。
11 月 3 日（日）聖徒の日記念礼拝が行われ、午後、過去 1 年の間に亡くなられた方々を覚え、階下の園舎で、ご遺族を囲んだ茶話会が開かれた。

◇これからの予定

12 月 4 日（水）	13：30～	新生会・いずみ会　アドベントの集い
12 月 6 日（金）	10：00～	ベテル幼稚園　保護者のためのクリスマス礼拝
12 月 17 日（火）	10：00～	ベテル幼稚園　クリスマス礼拝　（ページェント）
12 月 22 日（日）	10：30～	クリスマス主日礼拝（聖餐が行われます）
	12：30～	クリスマス愛餐会
	15：30～	教会学校 クリスマス礼拝（ページェント）
12 月 24 日（火）	19：00～	聖夜礼拝

今月のメッセージ

——ホームページページ巻頭言——

ホームページには多くの情報が掲載されています。
ぜひご覧ください
http://kakinokizaka-church.com

あなたの仰せを味わえば
わたしの口に蜜よりも甘いことでしょう。
（新共同訳聖書・詩編第 119 編 103 節）

教会の幼稚園の一日のはじまりに、教師たちが、毎朝、祈りのときを持っています。朝の慌ただしい準備のとき、少しでも時間がほしいときですが、しかし、その５分、１０分、主の御前に静まります。その日の聖書の言葉に聞いて、牧師が短い勧めを語って、その日の担当の教師、牧師が祈りを捧げて、一日の確認をし、その日の務めに就きます。

祈りを終えて教師たちは、子供たちを迎えるためクラスの準備をします。園長は、車や自転車の通りの多い教会角の路地に登園する子供たちの見守りのために立ちます。この折、朝の祈祷会で使った聖書を、教会玄関にある傘立てのところにいつも置いておきます。帰りに忘れないので便利なのです。

先日、台風の大雨の中、園児たちが登園してきて傘立ても満杯になりそうでした。傘を差してわたしは園児たちを迎えていたのですが、登園が終わって戻って傘立ての上に置いておいた聖書を捜しましたが、捜し物は教会玄関受付のカウンターの上に移して置いてありました。傘立ても満杯で誰かが移してくれたのだろうと思っていましたが、年少組の子が、聖書が濡れてはいけないとカウンターに移しておいてくれた、と教師から聞きました。

礼拝を捧げるために園児たちと礼拝堂に行くとき、大判の聖書を抱えて行きます。子供たちにまず聖書に目を留めて覚えてもらいたいとの思いからです。子供たちは、普段あまり目にすることない大きな本に興味を持ってくれます。かの年少組の子も、これは大切な本だと、傘立てに濡れそうになって置いてあった聖書に心を留めてくれたのでしょう。

入口は、目の前にある不思議な本が大切なものだと知ってくれることからでいいと思うのです。最初はよくわからないけれども、礼拝の中で大切な言葉として朗読されている聖書の言葉に聞いてみるだけでよいのです。しかし、不思議なことです。子供であっても、あの難しいと思える聖書の言葉から、その子に必要な言葉を聞き取るのです。いや、御言葉が届けられるのです。傘立てに濡れそうになって置いてあった聖書を濡れないところに移してくれた子供の心に、御言葉を大切にする思いが芽生えているのだと信ずるのです。

（牧師　渡邊　義彦）

———編集後記———

・長い間待ち焦がれたパイプオルガンが与えられました。オルガン導入に向けて、献身的努力を続けられた委員の皆様、それを支えてくださった多くの教会員の皆様に感謝いたします。このオルガンにより、いっそう豊かな賛美礼拝が捧げられますように。また伝道の業にも用いられますように。

・聖徒の日を覚えた礼拝がある月です。この教会の礎を築いてこられた先達の業に想いを馳せることができますように。

・待降節、降誕祭への準備が進んでいます。喜びの季節を祈りつつ迎えましょう。

・教会報へのご意見、ご感想をお寄せください。

（編集委員長　井澤浩一）

集会案内

主日礼拝　日曜日　午前 10 時 30 分
聖餐夕礼拝　第 1 日曜日　午後 5 時
入門講座　日曜日　午前 9 時 30 分
教会学校　日曜日　午前 9 時
（幼稚科、小学科、ジュニアチャーチ）
＊ジュニアチャーチは中学生、高校生です。
聖書と祈り会　水曜日午前 10 時、午後 7 時 30 分

日本基督教団　柿ノ木坂教会
〒152-0022　東京都目黒区柿の木坂 1-31-19
電話　03-3717-3870（教会・牧師館）
　　　03-3723-3870（ベテル幼稚園）
牧 師　　渡邊　義彦
協力牧師　松下　恭規